

原油高でバイオ燃料

普及加速

西新 2006-8-29(水)

道内各社が増産 1年で4倍も

原油価格の高騰による軽油の値上がりで、軽油の代替燃料である「バイオディーゼル燃料」(BDF)の人氣が高まり、道内でBDFを製造する会社が増産に追われている。価格が100円前後と、軽油より20円近く安いうえ、環境にも優しい。製造各社は、原油高を追い風に普及を図る考えた。

軽油より20円安人気

BDFはてんぷら油などから有害な硫黄酸化物を除去して作る。燃費や馬力は軽油と遜色がなく、100円前後と高値が植物が原料のため、排ガスも少ない。注目を集めるようになり、

ディーゼル

開発されたこともあり、注目を集めるようになり、

め、より多くのBDFを作りたい」と意気込む。

同市中央区の環境機器販売会社「Kモファクトリー」(黒田一哉社長)は昨年六月から、製造販売を始めた。一日八百リットルを製造し、軽油の市価をにらみながら、100円前後で供給している。

顧客の過半数は個人客で、BDFを製造している市内のほかの四社と提携し、供給網の構築を進めている。

帯広市の「地球防衛商店」は一日三百リットルを製造し、100円前後で販売中。笠井大社長は「将来的には製造設備を増やし、日産千リットルを目指している」。

利用者の評判も良く、配送車に使用している札幌市内の食材配送会社は「燃料費の節約になり、環境にも貢献できる。取引先の飲食店も『廃油を買い取ってもらえる』と喜んで」と話す。

◇ 独立行政法人の新エネ

ルギー・産業技術総合開発機構道支部によると、道内では二月末現在、十二事業所がBDFを製造している。

北海道バイオディーゼル研究会の大島武副代表は家庭から出ている。これまで捨てられていた家庭の廃油を集め、燃料として有効活用したい」と話している。

バイオ燃料では、ピートや小麦などを使ったガソリンの代替燃料「バイオエタノール」も注目されており、農水省が年間数万リットルを製造できる大型プラントを道内などのモデル地区に整備する方針を固めている。



配送車で取引先にBDFを届ける「どりーむ」の前田社長。軽油の高騰で問い合わせが相次いでいるという

一札幌市東区

昨年十月から製造販売を始めた札幌市東区の環境設備会社「どりーむ」(前田慎一社長)は同市内の飲食店や病院などから食用廃油を買い取りBDFを製造。100円前後で市内の運送会社や食品卸会社などに販売している。供給しているディーゼルの数は昨年十月末には約十台だったが、先月末に百台を突破。製造量を当初の一日二百リットルから同八百リットルに増やした。来月からは、製造設備を増設し、二倍の一日千六百リットルを製造する。

◇ 前田社長は「飲食店など事業所だけでなく、一般家庭の食用廃油も集